

昨日、あるテレビ番組を見ました。

中国のパンダ飼育施設で2頭のパンダが生まれました。先に生まれたパンダは母親の元で育てられたのですが、いわゆる未熟児として生まれた弟パンダを飼育員たちが24時間体制で献身的に世話をする様子を、ドキュメンタリータッチで伝えるものでした。ほぼ同時期に生まれたパンダたちは、成長とともに施設内の「幼稚園」に入り、木に登ったり、遊具で遊んだり、仲間とじゃれ合ったりして、一つひとつの仕草が愛くるしく微笑ましいものでした。ところが、未熟児として生まれた弟パンダは身体も他の仲間たちと同じくらいに育ったものの、一緒に遊ぶことができないばかりか、手当たり次第に仲間に攻撃を加えたり、一頭だけで過ごすようになってしまっていました。どうなるのかと成り行きを見守っていると、ある日、そのパンダの兄が近寄ってきてスキンシップのような行動を取りました。さらにその後、母親パンダもその兄弟のところに行き、2頭の子どもを抱きかかえ、弟パンダに毛繕いを始めたのでした。母親の身体に寄りかかって甘えるような姿をカメラはアップで捉え、ナレーターが、それ以来、弟パンダの乱暴な行動は見られなくなったと伝えていました。

番組を見て、兄や母親の取った行動が単に感動的だったということだけでなく、彼らから私たち人間が学ぶべき大切なことがあるのではないかと感じました。当たり前だけれども忘れてはならない、尊いものを。

(12月3日 角田)